

V 7年経験者研修

1 実施要項

1 目的

県内の公立の小学校・中学校及び義務教育学校並びに県立の中学校、高等学校及び特別支援学校（高知市立学校を除く。）の6年間の教職経験をもつ教諭に対して、若年教員育成プログラムの一環として1年間の研修を実施し、専門的な知識・技能を習得するとともに実践的指導力及びチームマネジメント力の定着を図る。

2 研修対象者等

7年経験者研修の対象となる者は、次の者であって、この研修を受講する者（以下「受講者」という。）は、研修効果及び校務への影響等を考慮し、県教育委員会が年度当初に決定する。

- (1) 平成22年度以降採用の公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校教諭で、3年経験者研修を修了し、主に在職期間が6年に達した者
- (2) (1)に挙げる者のうち、教諭として、国立、公立又は私立の学校において6年以上勤務した経験を有する者で、県教育委員会が当該者の経験の程度を勘案して7年経験者研修を実施する必要があると認める者は対象としない。
- (3) 県教育委員会は、この研修を効果的に実施するため、必要があるときは、研修対象者の一部を次年度以降に繰り下げて受講させるなどの措置をとる。

3 研修内容及び研修日数

7年経験者研修は、高知県教育センター（以下「県教育センター」という。）において実施する研修（以下「教育センター研修」という。）で構成し、研修内容及び研修日数は、別表のとおりとする。

- (1) 小学校、中学校及び高等学校の受講者で、学校教育法第81条第2項各号または学校教育法施行規則第140条各号に該当する児童生徒を担当している者は、特別支援学校の研修計画で受講することができる。
- (2) 特別支援学校の受講者で、知的障害者である児童生徒を教育する場合の教育課程以外を担当している者は、小学校・中学校・高等学校の研修計画で受講することができる。

4 年間研修計画

(1) 作成と実施

高知県教育センター所長（以下「県教育センター所長」という。）は、この要項に基づき研修計画を作成し、効果的に研修を実施する。

(2) 作成上の留意点

- ア 若年教員育成プログラムの目的に応じた効果的な研修計画とする。
- イ その他の研修との有機的関連を図る。

(3) 実施上の留意点

- ア 受講者が研修の目的を十分に理解し、研修参加の意欲を高めるよう配慮する。
- イ これまでの教育実践の中で明らかにされたそれぞれの課題を把握し、実践的指導力及びチームマネジメント力の定着につながるよう実施する。

5 校内指導体制等

- (1) 校長は、教育センター研修及び在籍校での授業実践等が円滑かつ効果的に実施できるよう校内体制を整備する。
- (2) 校長は、次のア、イに留意のうえ、教頭及び指導・助言に当たる者と連携して7年経験者研修が効果的に実施できるよう努める。
 - ア 受講者に研修の目的を十分に理解させ、研修意欲を高めるよう配慮する。
 - イ 受講者の悩みや現状を把握して適切な助言・支援を行う等、研修意欲が継続するよう配慮する。

6 その他

この要項に定めるもののほか、必要な事項については、県教育センター所長が別に定める。

〈別表〉 研修内容及び研修日数等

研修項目		研修内容	研修日数
教育センター研修	共通課題研修	I [ライブ配信研修] ■これから求められる資質・能力と学びとは ■研修の進め方	1日
		II ■教職員の服務	
		III ■次期ミドルリーダーとして	
	授業実践研修	I [ライブ配信研修] ■教科の特性に応じた学習指導の在り方 ■自己課題の認識	3日
		II [ライブ配信研修] ■ICTを効果的に活用した授業づくり	
		III ■授業実践の学習指導案検討	
		IV ■授業実践発表	
在籍校研修	授業実践	■授業実践（公開授業及び研究協議）	1回

2 教育センター研修の期日及び研修会場

期日・曜日	研修項目	研修会場				掲載ページ
		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	
6月2日(月)	共通課題研修Ⅰ 授業実践研修Ⅰ	在籍校				P.66
6月30日(月)	授業実践研修Ⅱ	在籍校				
9月11日(木)	共通課題研修Ⅱ	高知県教育センター	—	—	高知県教育センター	
9月18日(木)	授業実践研修Ⅲ	—	高知県教育センター	—	—	
1月20日(火)	共通課題研修Ⅲ	高知県教育センター	—	—	高知県教育センター	
1月27日(火)	授業実践研修Ⅳ	—	高知県教育センター	—	—	

3 項目別研修計画

(1) ねらい

【共通課題研修】

職務遂行に必要な実践的・専門的な知識・技能を習得・活用するとともに、自己の役割を自覚し、チームマネジメント力や実践的指導力を身に付ける。

【授業実践研修】

教科指導における自己の課題解決に向けて、専門的な知識・技能を習得し、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を行うことを通して、時代の変化に対応する実践的指導力を身に付ける。

(2) 日程及び内容

【共通課題研修Ⅰ・授業実践研修Ⅰ】

令和7年6月2日(月) 全校種

[ライブ配信研修] 会場 在籍校

9:10	9:30		12:30	13:30	16:00
接 続	開 講 式	講義・演習 これから求められる 資質・能力と学びとは	研修の 進め方	昼 食	グループ別・教科別研究協議 教科の特性に応じた学習指導の在り方 自己課題の認識

※9:20までに接続を完了すること。出席確認を9:20に行います。

【授業実践研修Ⅱ】

令和7年6月30日(月) 全校種

[ライブ配信研修] 会場 在籍校

9:10	9:30		12:00	13:00	16:00
接 続	講義・演習 ICTを効果的に活用した授業づくり		昼 食	講義・演習 ICTを効果的に活用した授業づくり	

※9:20までに接続を完了すること。出席確認を9:20に行います。

※事前操作研修(小・中 6/19(木))、(高・特 6/20(金))への参加については、P.69参照

【共通課題研修Ⅱ・授業実践研修Ⅲ】

令和7年9月11日(木) 小学校・特別支援学校

会場 高知県教育センター

令和7年9月18日(木) 中学校・高等学校

会場 高知県教育センター

9:00	9:30		12:00	13:00	16:00
受 付	講義 教職員の サービス	グループ別・教科別研究協議 授業実践の学習指導案検討	昼 食	グループ別・教科別研究協議 授業実践の学習指導案検討	

※管理職の持ち出し許可を得た情報端末機器(タブレット等)を持参すること。(P.69参照)

【共通課題研修Ⅲ・授業実践研修Ⅳ】

令和8年1月20日(火) 小学校・特別支援学校

会場 高知県教育センター

令和8年1月27日(火) 中学校・高等学校

会場 高知県教育センター

9:00	9:30		12:30	13:30	16:00
受 付	講義・演習 次期ミドルリー ダーとして	グループ別・教科別 研究協議 授業実践発表	昼 食	グループ別・教科別研究協議 授業実践発表	閉 講 式

4 「授業実践研修」の流れ（提出物及び持参物等）

月	4～5	6	7	8
在籍校研修等	自己課題を明らかにし、4回の「授業実践研修」と在籍校における「授業実践」を関連させ			
			事前操作研修 小・中 6/19(木) 高・特 6/20(金) 16:20～16:50 ■16:10までに接続を完了すること。 ■6月30日の研修の一環としてFigJam等の操作研修を行う。 ※研修への参加は任意	
教育センター研修		授業実践研修Ⅰ 【ライブ配信研修】 6/2(月)	授業実践研修Ⅱ 【ライブ配信研修】 6/30(月)	
		講義及び協議を踏まえ、自己の課題解決に向かう自己目標を明らかにする。	ICTを活用した学習者中心の探究の学びについて、プロジェクト型学習の授業づくりに関する講義・演習を受講する。	
○提出物	○受講教科等調査（小・中・高） ○受講教科等調査（特） 【締切】4/15(火) ※二次元コード	【授業実践研修Ⅰを受講後】 ○自己評価票 <small>（「自己の達成規準」を記述）</small> 【締切】6/4(水) ○授業実践シート <small>（1(4)まで記述）</small> 【締切】6/9(月) ※提出方法については、授業実践研修Ⅰで知らせる。		
●持参物		●授業実践シート <small>（1(3)まで記述）</small> ※HP掲載日 5/19(月)		
上記実施に当たつての確認事項	<p>6年間の授業実践及びICT活用指導力の現状から自己課題を明らかにし、単元全体を見通した授業デザインにICTの活用を位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を行う。特別支援学校においては、教科の指導等の効果を高めるとともに障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服したりするためにICTを活用する視点を踏まえた実践となるようにする。</p> <p><研修の提出物及び持参物等></p> <ul style="list-style-type: none"> 提出物の様式は、県教育センターHP「若年教員研修」からダウンロードすること。 授業実践研修Ⅰの参加方法は、県教育センターHP「年間研修カレンダー」に掲載する。 学習指導案、授業実践シートは、締切日までに各教科担当指導主事等より指定された方法で提出する。 			

9	10～12	1	2～3
ながら、単元全体を見通した授業デザインにICTの活用を位置付け、授業実践力を向上させる。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 授業実践 実施期間 10/6(月)～12/12(金) </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業動画を撮影する。 ■ 公開授業及び研究協議を管理職同席のもと行う。 ■ 課題解決の方策が適切であったか、ICTの活用が効果的であったかについて成果と課題を明らかにする。 		
授業実践研修Ⅲ 9/11(木)小・特 9/18(木)中・高		授業実践研修Ⅳ 1/20(火)小・特 1/27(火)中・高	
授業実践の学習指導案検討を行い、自己課題解決の方策及びICTの効果的な活用について研究協議を行う。		授業実践シートを基に1年間の授業実践の発表及び研究協議を行う。	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業実践の学習指導案 ○ 授業実践シート (2)(1)まで記述) ○ 年間指導計画 (特) 注1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 小・特【締切】8/28(木) 中・高【締切】9/4(木) </div>	(加筆・修正した) ○ 学習指導案 → ○ 授業実践シート (2)(2)まで記述) ○ 年間指導計画 (特) 【締切】授業実施日2週間前	【授業実践実施後】 ○ 授業実践の動画を提出 実施後1週間以内	○ 授業実践シート (2)(3)まで記述) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 小・特【締切】1/13(火) 中・高【締切】1/20(火) </div> 【授業実践研修Ⅳを受講後】 注2 ○ 授業実践シート (1)～(4)及び校長所見を記述) ○ 自己評価票 (本人及び校長評価を記述)
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業実践の学習指導案 ● 授業実践シート (2)(1)まで記述) ● 補助資料 ● 年間指導計画 (特) 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 補助資料とは、使用するワークシートや振り返りシート、ICT活用に関する資料等を指します。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施した学習指導案 ● 授業実践シート (2)(3)まで記述) ● 補助資料 ● 年間指導計画 (特) 	
注1 <特別支援学校における選択教科等の「年間指導計画」の提出及び持参について> 当該研修では、効果的な指導ができるよう「年間指導計画」を活用し研究協議を実施する。授業実践において選択する教科等の「年間指導計画」を「学習指導案」とともに指導主事等へ提出すること。			
注2 <授業実践研修Ⅳを受講後の提出物について>			
小・中	校長→当該市町村(学校組合)教育長	締切 2/6(金)	
	当該市町村(学校組合)教育長→県教育センター所長	締切 2/13(金)	
県立	校長→県教育センター所長	締切 2/13(金)	
【提出方法】 グループウェアのメッセージ 県教育センター「若年教員研修担当」あて			

5 「授業実践研修」における留意事項

- ◆ 情報端末機器（タブレット等）及び Google アカウントの持参について
高知県教育委員会から配付された Google アカウント（〇〇@g.kochinet.ed.jp）及び所属の自治体（県立の場合は県）が持ち出しを認めている学校の情報端末機器（タブレット）で、管理職の持ち出し許可を得た情報端末機器を持参すること。持参できない場合は、センターの機器を貸し出すので、研修当日、会場で申し出ること。
※県立学校においては、令和6年6月5日付け6高教政第194号【分類番号11-04-9999】「教職員用パソコン（校務系・学習系）の学校外での利用について（通知）」の運用ルールを管理職と確認のうえ持参すること。
- ◆ 年次研修にかかる提出物について
研修にかかるすべての提出物は、必ず管理職の決裁を受けてから提出すること。
【提出方法】

小・中	学校長→当該市町村（学校組合）教育長→県教育センター所長
県立	学校長→県教育センター所長

※学習指導案、授業実践シートに限っては、管理職の確認の後、本人より各教科担当指導主事等に提出する。
- ◆ 授業実践について
年次研修における授業実践については、研修の趣旨および若年教員の負担を鑑み、他の主催する事業と兼ねることは適切ではない。ただし、各学校の校内のみで行う研修の取組と連動させることは可能とする。その場合は、受講者、管理職等が研修のねらいに沿った協議ができる場を別に設定し協議を行うこととする。

(1) 「授業実践研修」における受講教科について

- ア 小学校の受講教科は、「国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語（外国語活動）」の中から選択し、第2希望までを入力すること。入力内容を管理職と相談・確認のうえ、4月15日（火）までに二次元コードから回答する。（P.71参照）特定の教科に人数が集中した場合は県教育センターで調整する。決定した受講教科は、5月19日（月）のHP掲載にて確認方法を知らせる。
- イ 中学校・高等学校・特別支援学校の受講教科は、入力内容を管理職と相談・確認のうえ、4月15日（火）までに二次元コードから回答する。（中学校・高等学校P.71参照、特別支援学校P.72参照）選択した教科が、受講教科となる。決定通知は行わない。

(2) ライブ配信研修について

- ア ZoomまたはGoogle Workspace for Educationを活用したライブ配信で研修を実施する。在籍校において、通信環境が良く、研修に専念できる環境で受講すること。マイク、カメラ機能のある端末を使用し、1人1台で接続する。9:20に出席確認を行うため、時間までに接続を完了すること。
- イ 「授業実践研修Ⅱ」に向け、FigJam等の操作に関する事前研修を行う。事前操作研修の参加は任意とする。小学校・中学校は6月19日（木）、高等学校・特別支援学校は6月20日（金）に実施する。詳細については、授業実践研修Ⅰで連絡する。

(3) 授業実践（10月6日～12月12日）について

- 授業実践は、管理職等の参観による公開授業とし、研究協議を行う。各教科担当指導主事等の訪問は行わず、各学校において実施する。
- ア 「授業実践研修Ⅱ」を受講後、在籍校において学習指導案等を作成する。その際、「授業実践研修Ⅰ・Ⅱ」での学びを生かし、単元全体を見通した授業デザインにICTの活用を位置付け、児童生徒が1人1台端末を活用したものとなるようにする。本時が1人1台端末の活用場面であること。
- イ 「授業実践研修Ⅲ」を受講後、加筆・修正した学習指導案等を、授業実施日2週間前までに各教科担当指導主事等に提出し、指導・助言を受けること。
- ウ 授業の様子は動画撮影し、授業実施後、授業動画の分析を行う。授業動画の分析は、可能な限り複数名で行い、指導・助言を受ける。また、研究協議とあわせて行ってもよい。研究協議は、管理職を含む複数名（教科会・学年団等）で行い、授業実践シートを活用し、自己目標達成に向けた課題解決の方策及びICTの活用が効果的であったかを柱とした協議を行うこと。
- エ 撮影した授業動画は、授業後1週間以内に各教科担当指導主事等の指示のもと、Google Classroomに提出する。提出後、各教科担当指導主事等と振り返りを行う（授業実践は、ライブ配信も可とする）。授業実践は、可能であれば定点撮影を避け、1人1台端末の活用の様子が分かるように撮影すること。（その他、撮影に関する留意点は、P.74参照）

オ 撮影する授業動画や「授業実践研修Ⅲ・Ⅳ」の研究協議で使用する補助資料については、個人情報に配慮すること。

カ 授業動画は、個人情報の観点から各教科担当指導主事等との協議後、ドライブから削除すること。

(4) 特別支援学校の「授業実践研修」について

ア 教育課程について

受講者は、担当する教育課程を確認し授業実践を実施すること。

イ 小学校、中学校、高等学校に準ずる教育課程の場合

授業実践は、担当する「教科」、「特別の教科 道徳」、「総合的な学習（探究）の時間」の中から選択し実施すること。

ウ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教育課程の場合

授業実践を「知的的教科」、「特別の教科 道徳」、「総合的な学習（探究）の時間」の中から選択し実施すること。

また、指導の形態については、「教科別の指導」または「各教科等を合わせた指導」とする。

(5) 「授業実践研修Ⅳ」について

授業実践シート及び「授業実践」の学習指導案等を用いて、1年間の授業実践についての発表と研究協議を行う。

(6) 「授業実践シート」について

「授業実践シート」は教育センター研修、在籍校における授業実践、研究協議等で活用し、年間を通して効果的なPDCAサイクルとなるように、その都度追記・修正する。なお、記述する際には、以下のア、イについて留意する。

ア A3用紙に、フォントサイズは10～11ポイントで記述する。

イ 記述内容については、「授業実践シートの記述について」(P.73)を参照する。

(7) 授業チェックシートの活用について

公開授業等の授業実践の際には、管理職等の参観者に「授業チェックシート」(P.75)を活用してもらうなど、自己の授業の振り返りができるように工夫する。

(8) 自己評価票について

「自己評価票」(P.76～)は、「高知県教員育成指標」に対する「自己の達成規準」を作成し、自己評価を行うとともに校長との面談等を通して教育実践を振り返り、次のステップに生かすよう活用する。なお、校長評価を1月にしてもらう。

(9) 提出した学習指導案について

本研修で提出した学習指導案については、教科研究センターにて広く活用できるように、閲覧・複写可能な資料として公開する。また、研修等の資料として使用することがある。その場合、学校名、教諭名及び個人が特定されるような情報等については、県教育センターにて削除する。

【センター研修での持参物】

全校種	<ul style="list-style-type: none"> ●情報端末機器（タブレット等） ●若年教員研修のしおり「子どもと生きる」 ●授業実践シート ●「高知県授業づくり Basic ガイドブック～若年教員のための基礎・基本～」または「高知県授業づくり Basic ガイドブック－高校授業編－」 	<ul style="list-style-type: none"> ●若年教員研修の概要 ●名札（在籍校で使用しているもの）
小中高	<ul style="list-style-type: none"> ●担当（受講）教科の学習指導要領解説 ●担当教科の『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』 <p style="text-align: center;">【国立教育政策研究所 http://www.nier.go.jp/】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●担当（受講）教科の使用教科書等
特	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) ●特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(高等部) ●準ずる教育課程における担当教科の学習指導要領解説等 <p>※実践に関係するものを持参すること。</p>	

7年経験者研修 受講教科等調査（小学校・中学校・高等学校）

※二次元コードから回答する。

※管理職と入力内容を相談・確認のうえ回答する。

※小学校において、専科教員や複式学級、特別支援学級の担任、通級による指導の担当のみ特記事項に入力する。

※中学校・高等学校の受講教科は、所有免許状教科に限る。（臨時免許状は不可）

※特別支援学級もしくは通級による指導を担当している受講者は、特別支援学校の研修計画を選択することができる。受講を希望する者は、特記事項にその旨を入力する。

※学校の研究教科、指定事業は特記事項にあたらない。

※入力及び回答については、P. 69 参照。

【4/15(火)締切】令和7年度7年経験者研修 受講教科等調査（小・中・高）

※小学校・中学校・高等学校の受講者のみ回答してください。
※単元の中にICT活用を効果的に位置付け、児童生徒が1人1台端末を本時で活用した授業実践を行うことを踏まえて教科を選択すること。
※入力及び回答については、概要P.69～71参照。

@g.kochinet.ed.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

① 受講者番号（半角）
※「7000」の4桁の番号です。不明な場合は、管理職に確認してください。

回答を入力

② 学校名
例) 〇〇立〇〇学校

回答を入力

下の二次元コードからアクセスし、期日までにフォームで回答する。



<https://x.gd/lmWZR>

高知県教育委員会から配付された Google アカウントをご使用ください。回答内容は、印刷する等し、保管するようにしてください。



<小学校 特記事項記載例>

※専科教員や複式学級、特別支援学級の担任、通級による指導の担当のみ特記事項を入力してください。

- 例)
- ・専科で4年から6年の理科を担当しているが、授業実践は5年で行う。
 - ・3・4年の複式学級を担当しているが、授業実践は4年で行う。
 - ・3・4年の複式学級を担当しており、授業実践も複式で行う。
 - ・特別支援学級（自閉症・情緒障害）の担任をしているが、授業実践は交流学級で行う。

<中学校・高等学校 特記事項記載例>

- 例)
- ・数学での採用であるが、現在は技術のみを担当しているため、技術での受講を希望。
 - ・特別支援学級（知的障害）の担任をしており、採用教科である国語を担当していないため、特別支援学校の研修計画での受講を希望。

7年経験者研修 受講教科等調査（特別支援学校）

※二次元コードから回答する。

※管理職と入力内容を相談・確認のうえ回答する。

※受講教科の選択について特筆すべきことがあれば、特記事項に入力する。

※小学校、中学校、高等学校に準ずる教育課程を担当している受講者は、小学校、中学校、高等学校の研修計画を選択することができる。受講を希望する者は、特記事項にその旨を入力する。

※入力及び回答については、P. 69、70 参照。

【4/15(火)締切】令和7年度7年経験者 研修 受講教科等調査（特別支援学校）

※特別支援学校の受講者のみ回答してください。
※単元の中にICT活用を効果的に位置付け、児童生徒が1人1台端末を本時で活用した授業実践を行うことを踏まえて教科を選択すること。
※入力及び回答については、概要 P.69～72 参照。

@g.kochinet.ed.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

①受講者番号（半角） *

※「74〇〇」の4桁の番号です。不明な場合は、管理職に確認してください。

回答を入力

②学校名 *

例) 〇〇立〇〇学校

回答を入力

下の二次元コードからアクセスし、期日までにフォームで回答する。



<https://x.gd/g4KgK>

高知県教育委員会から配付された Google アカウントをご使用ください。回答内容は、印刷する等し、保管するようにしてください。



<特別支援学校 特記事項記載例>

- 例)
- ・小学校に準ずる教育課程 算数（3年）で授業実践を行う。
 - ・高等学校に準ずる教育課程（外国語）を担当しており、教科の専門性を高めたいため、高等学校（外国語）での受講を希望。

令和7年度 7年経験者研修 授業実践シート の記述について

受講者番号	学校名	教科/ 担当学年	受講者氏名
<p>1 (1) 教科等の指導における自己の課題</p> <p>これまでの自己の授業実践を振り返り、教科等の指導における自己の課題について具体的に記述する。また、授業におけるICT活用の現状や課題についても記述する。</p> <p>【授業実践研修Ⅰに持参】</p> <p>(4) 「授業実践研修Ⅰ」における気付きと課題解決に向かう自己目標</p> <p>教科等の指導における自己の課題と目指す児童生徒の姿から、本年度の授業実践における自己目標を具体的に記述する。</p> <p>※ 「授業実践研修Ⅰ」受講後に記述し、6月9日までに各教科担当指導主事等へ提出</p> <p>(3) 目指す児童生徒の姿</p> <p>担当する児童生徒の学力等の実態を基に、授業実践を通して目指す1年後の児童生徒の姿を具体的に記述する。</p> <p>※ 資質・能力を身に付けた姿を具体的に記述する。</p> <p>【授業実践研修Ⅰに持参】</p> <p>(2) 児童生徒の学力等の実態</p> <p>担当する児童生徒の学力等の実態について具体的に記述する。</p> <p>※ 小・特は、選択教科等における児童生徒の学力等の実態について記述する。</p> <p>【授業実践研修Ⅰに持参】</p>	<p>2 (1) 「授業実践研修Ⅱ」を受けて</p> <p>「授業実践研修Ⅱ」における気付きを踏まえ、自己目標達成に向けた取組に生かしていきたいことや目的に応じたICT活用について、実践する単元の中のようにICTを位置付けるのか等を記述する。</p> <p>※ 「授業実践研修Ⅱ」受講後に記述</p> <p>※ 8月28日(小・特)、9月4日(中・高)までに各教科担当指導主事等へ事前提出</p> <p>【授業実践研修Ⅲに持参】</p> <p>(2) 「授業実践研修Ⅲ」を受けて</p> <p>「授業実践研修Ⅲ」における気付きを踏まえ、自己目標を達成するための手立てやICTの効果的な活用の仕方等を具体的に記述する。</p> <p>※ 「授業実践研修Ⅲ」受講後に記述し、授業実践の実施2週間前までに各教科担当指導主事等へ提出</p> <p>(3) 授業実践の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <p>授業実践を通して、自己目標達成に向けた取組及びICTの活用が効果的であったのか、研究協議や撮影した授業動画を基に検証・分析を行い、成果と課題を記述する。</p> <p>※ 授業実践の実施後に記述</p> <p>※ 1月13日(小・特)、1月20日(中・高)までに各教科担当指導主事等へ提出</p> <p>【課題】</p>	<p>3 「授業実践研修Ⅳ」における気付き</p> <p>「授業実践研修Ⅳ」における研究協議後の気付きについて具体的に記述する。</p> <p>※ 「授業実践研修Ⅳ」受講後に記述</p>	<p>4 中期に向けての実践的指導力向上のための方策</p> <p>「授業実践研修」及び「自己評価票」を基に自己の実践を振り返り、中期に向けての実践的指導力向上のための具体的な方策を記述する。</p> <p>※ 「授業実践研修Ⅳ」受講後に記述</p>
<p>校長所見</p> <p>中期に向けて、受講者がさらに向上できるように、7年経験者研修における受講者の取組や日々の教育活動の中で気付いた点を記述する。</p>			<p style="text-align: right;">校長名</p>